

# 研究企画が知っておかなければならない

1名分料金で  
2人目無料

## テーマ評価の基礎知識

※職場や自宅のPCでオンライン会議アプリZoomを使って受講できます。受講方法などは申込後にご連絡いたします。

- ◆日時: 2026年4月22日(水) 10:30~16:30
- ◆形式: ZoomでのWEB配信
- ◆聴講料: 1名につき49,500円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。  
 ・1名でお申込みされた場合、1名につき**44,000円(税込)**  
 ・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で49,500円(税込))**

詳細はHPへ⇒<https://www.rdsc.co.jp/seminar/260490>

### セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

### ●講師: ベクター・コンサルティング(株) 代表取締役社長 浪江 一公 氏

#### 【受講対象】

研究開発企画や研究開発に実際に携わっている以下を含めた方々を対象とします。

- ・研究開発企画・技術企画部門に新たに配属になったので、  
テーマ評価の方法を学びたい管理者
- ・きちんとしたテーマ評価を行う仕組み構築の  
指示を受けた研究開発企画・技術企画部門の管理者
- ・自社の研究開発テーママネジメントの仕組みに危機意識を持つ経営幹部、など

#### 【講座の趣旨】

企業の研究開発活動は、社内で「多くの経営資源を使いながら、期待された成果を出していない」と非難され、また残念ながら現実にもそうであることは多いものです。この問題の根源的・共通的な原因に、テーマの評価・選択が適正に行われていないことがあります。極めて多くの企業において、テーマの評価・選択は担当する研究者の熱意の強さや評価する上司の属人的な思いや価値観という、曖昧かつお座りな判断によって決められています。しかし、このような偏った視点に基づく評価は大変危険です。なぜなら、テーマは本来的に、企業の収益に貢献しなければなりません。客観的な「本当にそもそもそのテーマは、会社の収益に貢献する要件を備えているのか？」の評価視点に基づき、また一方で判断の時点で限られた情報という現実的制約の下で(つまり不確実性の存在を前提とし)、徹底して思考・検討し、冷徹に判断をしなければなりません。

本セミナーにおいては、『木』(個別評価法)と『森』(全体評価体系)の両方学んでいただきます。最初に『木』の議論として、代表的な研究開発テーマの評価法について、いくつかの演習を含め、学んでいただきます。後半では『森』の議論として、これらの研究開発テーマ評価方法を、ステージゲート・プロセス(注:ステージゲートは決して個別の方法論ではありません。全ての企業に適用される普遍的なテーマ・マネジメントの構造を示すものです)を中核のフレームワークとして、どう全体の研究開発テーマ評価体系の中に組み込んでいくかを、それぞれの個別評価法の特徴とメリット・デメリットを踏まえた上で議論をしていきます。

したがって、本セミナーは個別の評価法を学ぶだけではなく、今後皆様企業が戻り全体の研究開発テーマの評価体系を考える上で大変役立つ知識を習得していただきます。

#### 【プログラム】

1. 日本企業の研究開発テーマのマネジメントの3つの代表的問題
  - 1) 評価者の限定的かつ属人的経験・知識に基づく評価(化学会社の例)
  - 2) 研究者の熱意の過度の重視(食品メーカー、無線機器メーカーの例)
  - 3) 不確実性を軽視した評価(オフィス機器メーカーの例)

#### 2. 様々な研究開発テーマ評価法

<非財務法>

- 1) 直感法(ステイプ・ジョブズ、井深大、シャープの緊プロの例)
- 2) 対話法(化学会社の例)
- 3) スコア法

- a. BMO(Bruce Merrifield & Ohe)法
- b. リスクリターン法
- c. STAR(Strategic Technology Assessment Review)法
- d. 演習1:スコア法演習
- e. スコア法のメリットとデメリット

<財務法>

- 4) ディスカウント・キャッシュフロー法
  - a. NPV(正味現在価値)
  - b. IRR(内部収益率)
  - c. 演習1~5(NPV・IRRの算定と意思決定)
  - d. ディスカウント・キャッシュフロー法の主要な課題
  - e. ディスカウント・キャッシュフロー法を使う上での注意点
- 5) 回収期間法
- 6) ECV(期待経済価値)法(演習6)

#### 3. 良い研究開発テーマ評価システムの要件

- 1) 個別の研究開発テーマ評価法の限界
- 2) 研究開発テーマ評価の基本フレームワーク
- 3) 良い研究開発テーマ評価システムの要件
  - a. 不確実性・複雑性に対処しながらも分かり易い評価体系
  - b. 評価者・担当者間で納得感・信頼感がある
  - c. 事業・製品で成功するための重要なポイントをきっちりおさえている
  - d. 革新的なテーマを正しく判断し意思決定ができる:多数決は機能しない
4. 全体評価体系としてのステージゲート・プロセス

#### 1) ステージゲート・プロセスとは?

- a. 「良い研究開発テーマ評価システムの要件」に対処したプロセス
- b. ステージゲート・プロセスは方法論ではない!  
テーマ・マネジメントの「普遍的」な仕組み!
- c. ステージゲート・プロセスの背景と歴史
- d. 革新的な製品・事業・技術創出には:不確実性への対処

- 2) 不確実性への対処としてのステージゲート・プロセスの11の工夫
- 3) ゲートでの評価体系・評価項目例
- 4) ゲートでの正しい意思決定法
- 5) ステージゲート・プロセスと上で議論した  
個別研究開発テーマ評価法との関係

【質疑応答】

### 『R&Dテーマ評価』WEBセミナー申込書

FAX番号: 03-5857-4812

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール  郵送

#### ● セミナーの受講申込みについて ●

左記の欄に必要な事項をご明記の上、FAXでご送付ください。弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして受講券、請求書をお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。  
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。  
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>